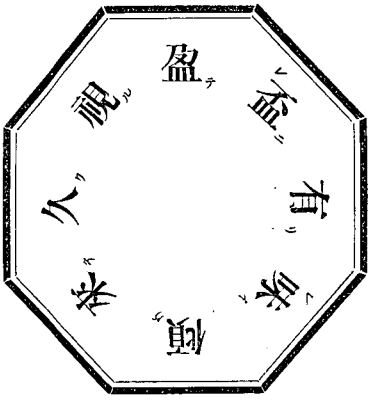
盃銘

云云、

〔花營三代記下〕應永廿九年正月十八日、武田兵庫頭、兵庫助、朝日又三郎、小串次郎左衞門、陶山備中次郎、爲射手高名、自御所樣御盃一重被下之、御方ヨリ御盃、御太刀被下、御臺ヨリ御盃一重、練被下之、〇略下

紀納言

〔本朝文粹十二銘〕盃銘廻文



僧文草

〔安齋隨筆後編八〕利休居士酒盃ノ銘

一杯人飲酒　二杯酒飲酒　三杯酒飲人

〔本朝文鑑八銘〕盃銘

花はさかりに月はくまなきをのみ見る物かは、酒は晝十夜八ならんをや、

狂云、此銘ハ短簡ニシテ、韵ヲ用ルニ奇法アリ、〇略中爰ニ晝十夜八トハ、世ニ盃ノ諺ニ、晝ハ十分ニ酒ヲ盛ルベク、夜ハ八分ニト云ヘバナリ、

〔花街漫錄下〕縣升見杯

升見常に此杯を愛して、菊慈童とは呼けるとぞ、近きとし千蔭ぬしも、是に歌をそへられたり、